

書式第12号（法第28条関係）

平成29年度事業報告書

平成29年9月1日から平成30年8月31日まで

特定非営利活動法人 日本聴覚障害者コンピュータ協会

1. 事業の成果

平成29年度は、阪神大震災から23年、東日本大震災から7年を迎えた年になる。また、下で示すように多くの災害が起きた年でもあった。そのような時代にあって、コンピュータ関連業務に係る聴覚障害者のコミュニケーションの活性化や災害教育等の社会教育を行うことにより、その資質及び社会的地位の向上を目指すことが必要である。そのために、聴覚障害者一人ひとりのニーズに対応できるように、自然災害に対する情報格差の解消などの活動を行う組織基盤づくりの学習をした。

平成30年は、島根県西部地震（4月）、大阪北部地震（6月）、北海道胆振東部地震（9月）などの大規模地震災害、そして多くの死者を出した7月豪雨災害や台風21号など、自然災害が非常に多い年であった。そして、勤務中の地震による被害や帰宅困難などの事態にどう向き合うかを健聴者とともに学び、「聞こえ」に関する真の理解を深める必要性が明確になった年であった。

当年度は、例会・講習会等を年4回開催した。内容は、米国や韓国で行われた「電話リレーサービスの動向」、手話アプリの使いやすさを討論した「手話・日本語辞典の試み」、スマホとメガネ型端末でアクセスするバリアフリー映画「新システムUDCast」の紹介などである。

例会参加者のコンピュータ関連業務の経験を生かして、手話アプリに関するアイデアの提案を集めることができるなど、聴覚障害者の積極的な関与が見られた。

当年度下半期には、「公益財団法人キリン福祉財団」から「福祉のちから開拓事業」助成金を受け、「聴覚障害高齢社会の未来づくりプロジェクト」の活動を始めた。

これは長期的なビジョンであり、初年度は、聴覚障害者固有の情報収集に関わる困難さと高齢化社会に係る問題を明確化することに重点目標を置いて、聞こえに障害のあるケアラー（介護者）が親の介護をする上での課題に関する調査のWEBアンケート設問の作成を行った。また、「目で聴くテレビ」番組制作配信についての検討を行った。これは、認定NPO法人特定非営利活動法人障害者放送通信機構に委託して、「目で聴くテレビ」番組制作の計画立案及び介護者に対するインタビュー映像の配信を行うものである。

またNPO法人はこだて音の視覚化研究会の企画で公立はこだて未来大学等を訪問して、大学教授らに「手話アニメーションを使った防災学習の構想」と「聴覚障害（高齢者）介護サポートの構想」を提案し、討論することができた。このように他団体や学協会との共同研究活動にも積極的に取り組んでいる。

これと併せて、情報収集や発信の場となるメーリングリスト等により手話等を使うコミュニケーションの活性化への支援も行った。

反省点としては、当法人会員の多くが聴覚障害者であり、コミュニケーション方法もばらつきがあることから意思統一に時間を要し、各事業の円滑な遂行に支障をきたしがちであったことがあげられる。

また、会を運営している聴覚障害者が高齢化し、疲弊していることや、会員の減少も進むという会活動の活力の低下が見られることから、7事業のうち4事業に縮小して活動をしている。

「聞こえ」の困難さをもつ聴覚障害者が高齢者の介護に直面した時の種々の対応が必要とされている現在、「聴覚障害者固有の課題」が十分に明確化されていないという問題を解決するためには、大学との共同研究や地域NPOや民間企業、障害福祉団体などとの連

携によって、情報提供システムの構築を進めることが重要となる。

長期的な計画となるが、聴覚障害者固有の問題を解決するために正確な情報を提供し、かつ各地域に特化した手話コミュニケーションの支援や聴覚障害者向け防災学習を行い、地域住民との交流や2020年東京オリンピック・パラリンピックでのグローバルな交流への参加を促進するとともに、誰もが安心して生活をおくることができる高齢社会生活の未来づくりの実現に取り組む。わたしたちのIT技術をいかしたアイデアから、世界に通用するものづくりデザインなどの新たな情報技術の開拓を考える上での一助としたい。

以上、この一年間の事業の成果をまとめた。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
①情報処理業務に必要な知識、技能に係る研究、研修及び情報交換事業 【別表1】	1. 例会の開催実施	9月23日 11月23日 3月17日 6月30日	東京都障害者福祉会館	3人	地域住民 1回20人× 4回=80人	364
	2. コンピュータ技能研修会				実施なし	
②情報処理業務に関心を持つ聴覚障害者に対する社会教育事業 【別表2】	1. WEBプロジェクト	通年	北海道、関東、関西	2人	不特定参加500人	54
	2. メーリングリスト、SNS等の情報収集発信	通年	全国発信	2人	不特定参加500人	
	3. mimicom会報発行	年4回	全国発信	1人	会員向け100人発行	
③聴覚障害者による情報処理業務を阻む問題点の解決支援事業	1. 新人講師講習会				実施なし	0
	2. コンピュータ講習会講師派遣				実施なし	
④聴覚障害者による情報処理業務の円滑な遂行に必要な知識、技能等に関わる情報提供システムの構築事業 【別表3】	1. 情報や調査ツールの構築	年2回	開発者在宅	2人	不特定参加100人	0
	2. 聴覚障害高齢者介護等のアンケート調査	5月	東京都障害者福祉会館	2人	聴覚障害関係者5人	
	3. 手話やコミュニティ防災学習等の情報提供	3月	東京都障害者福祉会館	2人	聴覚障害関係者5人	
⑤情報処理業務に関する専門用語に関する手話の研究、開発及び普及事業 【別表4】	1. コンピュータ用語の手話研究開発普及	通年	東京都障害者福祉会館	2人	聴覚障害関係者5人	0
	2. 手話学習アプリ開発	通年	開発者在宅	2人	開発者2人	
	3. コンテンツ編集、DVD発行				実施なし	
⑥聴覚障害者の情報処理業務	1. コンピュータ講習会テキストの編集				実施なし	0

に関する書籍及びプログラムの発行	2. コンピュータプログラムの発行				実施なし	
⑦その他第3条の目的を達成するために必要な事業	1. 障害者団体や他のNPO法人との相互協力				実施なし	0
	2. 地域交流、政策提言、各種大学との共同研究開発等				実施なし	

【別表1】

①情報処理業務に必要な知識、技能に係る研究、研修及び情報交換事業

実績報告				活動に必要な費用
情報処理業務に必要な知識、技能に係る研究、社会教育（及び情報交換）の向上のため、コンピュータ技能研修、例会開催等の活動を行った。				
1. 例会の開催実施				1. 例会の開催実施
例会No.	日程 参加人数	場 所	テーマ及び講師	諸謝金 192,000円 (内訳) 講師 30,000×1人 15,000×2人 10,000×2人 手話通訳者7,000×8人 文字通訳者7,000×8人 旅費交通費 145,468円 講師、手話文字通訳者 会議費 22,000円 印刷製本費 40円 雑費 2,536円 合計 362,044円
第1回 (第50回)	H29.9.23 20人	東京都障害者 福祉会館	第一部 手話アニメの例題の紹介 兼平新吾氏 ・現在の報告 ・手話アニメの表現、見やすさの確認など 第二部 電話リレーサービスの最新動向 ～米国、韓国の実地調査など～ 井上正之氏 ・8月に米国、11月に韓国で行われた電話リレーサービスの実地調査など	
第2回 (第51回)	H29.11.23 20人	東京都障害者 福祉会館	定期総会 ・「手話・日本語辞典の試み」 千葉商科大学非常勤講師 竹村 茂氏 ・小僧編など3D手話アニメーションに関する「インタビュー調査」を約15分間実施。 「アプリの使いやすさ」など調査 教育大学函館校渋谷慶介	
第3回 (第52回)	H30.3.17 20人	東京都障害者 福祉会館	・スマホとメガネ型端末でアクセスするバリアフリー映画の新システムUDCast メディア・アクセス・サポートセンター 川野浩二氏 http://udcast.net/about/ ・公立はこだて未来大学等の議論、共同研究との取り組み 並川 正、平川美穂子	
第4回 (第53回)	H30.6.30 20人	東京都障害者 福祉会館	・介護プロジェクト進捗状況報告 平川美穂子氏 ・「目で聴くテレビ」のご紹介 アステム社専務 梅田様 ・「アイ・ドラゴン4」について アステム社開発責任者 中谷様	
()内はNPO法人になってからの通算回数、当年度は4回開催した。				2. コンピュータ技能研修会 実施なし。

<p>2月、NPO法人はこだて音の視覚化研究会から企画提案があった、「音の視覚化フォーラム」に参加した。北海道教育大学函館校と公立はこだて未来大学を訪問して、「手話アニメーションを使った防災学習の構想」「聴覚障害（高齢者）介護サポートの構想」の2点について議論し、大学との連携、共同研究の提案などについても話し合いを行った。激励と今後の支援についての確約をいただき、今後に大きな期待を持てる会合となった。</p> <p>2. コンピュータ技能研修会（教育部活動） 関東地方に講師依頼への派遣は、実施しなかった。 当年度は、TEPIAプロジェクトの終了に伴い、聴覚障害者への新しい情報支援教育活動を摸索していく時期に差し掛かっている。自主講習会実施を検討しているので、皆様の協力をお願いしたい。</p>	
--	--

【別表2】

②情報処理業務に関心を持つ聴覚障害者に対する社会教育事業

実績報告	活動に必要な費用
<p>情報処理業務に関心を持つ聴覚障害者に対する情報収集発信（社会教育）のため、WEBプロジェクト活動、会報発行等の活動を行った。</p> <p>1. WEBプロジェクト 聴コン会のWebサイトを見直し、リニューアルを行った。 サークルスクエアは利用者が少ないが、無料のため、継続している。</p> <p>2. メーリングリスト、SNS等の情報収集発信 ・mimicomメーリングリスト ・staff2009メーリングリスト ・フェイクブックなど不特定多数への情報収集発信に参加した。</p> <p>3. mimicom会報発行（広報部・啓蒙事業） ・機関誌「MimiCom」は、年4回発行した。 ・聴コン会のホームページとブログ運用、更新作業。</p>	<p>1. WEBプロジェクト サーバー使用料 24,200円</p> <p>2. メーリングリスト、SNS等の情報収集発信 無料のため費用なし。</p> <p>3. Mimicom会報発行 通信運搬費 2,815円 印刷製本費 26,000円 消耗品費 1,768円</p> <p>合計 54,783円</p>

【別表3】

④聴覚障害者による情報処理業務の円滑な遂行に必要な知識、技能等に関わる情報提供システムの構築事業

実績報告	活動に必要な費用
<p>聴覚障害者による情報処理業務の円滑な遂行に必要な知識、技能等に関わる情報提供システムの構築をするため、アンケート調査、聴覚障害高齢者介護、コミュニティ防災学習等の情報提供活動を行った。</p> <p>5月、「公益財団法人キリン福祉財団」から福祉のちから開拓事業助成金を受け、「聴覚障害高齢社会の未来づくりプロジェクト」の活動を始めた。</p> <p>認定NPO法人聴覚障害者通信機構と協力し、介護を取り上げた番組を制作する契約をした。まずは介護する側、される側両方の視点から聴覚障害による課題を整理し、今後の指針につなげていくために、聴コン会の技術を用いて支援していくことになった。</p> <p>次の通り、打ち合わせを行った。</p> <p>1. 情報や調査ツールの構築 ① 目で聴くテレビ番組制作（アイドラゴン、KBS、TVKで放送） ② 放送後、YouTubeあるいはSNSやDVD制作など、年2回打ち合わせした。</p> <p>2. 聴覚障害高齢者介護等のアンケート調査 ① 聞こえに障害のあるケアラー（介護者）が親の介護をする上での課題に関する調査のWEBアンケート設問の作成、手話によるアンケート動画作成</p>	<p>「キリン福祉財団」から助成金1,000,000円を受けた。費用について次のとおり予定している。</p> <p>認定NPO法人聴覚障害者通信機構等に委託業務依頼、いずれも次年度までに完了予定。</p> <p>1. 情報や調査ツールの構築 制作費675,000円予定 備品費50,000円予定</p> <p>2. 聴覚障害高齢者介護等のアンケート調査 旅費交通費40,000円予定</p>

<p>② アンケート結果のデータ集め、取材、協力依頼などの準備を進めた。</p> <p>3. 手話やコミュニティ防災学習等の情報提供 コミュニティ防災学習では、平成27年9月に発行された東京防災」という災害情報についての本を学び、聴覚障害者への配慮に欠ける部分があったことを指摘することができた。 また、地震、豪雨、豪雪や台風による被害が多くなって来ている中、聴覚障害者が災害時避難、帰宅困難状態になった場合に不便さや困難にどう向き合うかを改めて学び、防災情報等の問題点を見つけ出すことも試みた。</p>	<p>通信費59,600円予定 消耗品費10,500円予定 謝金130,000円予定 情報保障費等222,400円予定 いずれも次年度までに完了予定。</p> <p>3. 手話やコミュニティ防災学習等の情報提供 実施したが費用は次年度予算検討。</p>
---	---

【別表4】

⑤情報処理業務に関する専門用語に関する手話の研究、開発及び普及事業

実績報告	活動に必要な費用
<p>情報処理業務に関する専門用語に関する手話の研究、開発及び普及をするため、手話学習アプリ開発、コンテンツの開発および整備、DVD発行、手話普及等の活動を行った。</p> <p>1. コンピュータ用語の手話研究開発普及 前年度4月、「ICTによる3D手話学習アプリ開発プロジェクト（略して「ICT手話プロジェクト）」を立ち上げた。 ・「手話・日本語辞典の試み」千葉商科大学非常勤講師竹村茂氏の提案を参考にした音声語入り手話映像を作成することを、NPO法人はこだて音の視覚化研究会に委託業務として依頼した。 ・小僧編など3D手話アニメーションに関する「インタビュー調査」を約15分間実施。「アプリの使いやすさ」などについて調査も行った。</p> <p>2. 手話学習アプリ開発 パンフ小僧編53語を音声語入り2D/3D動画データ作成と説明文を入れたHTMLページを http://esign.mimicom.gr.jp/kozou/ に置いて会員限定で試供版を公開した。さらに手話を学ぶ人の要望により、手話学習テキストや2Dのみの手話の絵イラストでは動きを把握しづらいことから、手話表現のわかりやすさ、動作再生の明確さのほか、注意書き等を助言しながら、3D化手話学習のメリットを充実に説明した。 引き続き、IT用語の手話単語の拡充をしている。</p> <p>3. コンテンツ編集、DVD発行 音声語入り2D/3D動画を編集したDVD発行予定は、検討している。</p>	<p>1. コンピュータ用語の手話研究開発普及</p> <p>NPO法人はこだて音の視覚化研究会に委託業務を契約、500,000円を貸し付けて委託業務を依頼する。 内訳、手話単語1語あたり3,500円で音声語入り手話映像の編集。</p> <p>2. 手話学習アプリ開発 上記の1.を含む。</p> <p>3. コンテンツ編集、DVD発行 費用は次年度予算検討中</p>

(2) 事務局運営について

① 活動報告

平成29年度の事務局の運営としては、会員数が減少していることや会を運営している聴覚障害者の高齢化が進み、体力的にも疲弊しているという状況から、7事業のうち4事業に縮小して実施活動を行っている。

聴覚障害をもつため、電話など連絡手段や会員の参加呼びかけに苦勞しているため、会の運営に協力する健常者が必要である。

会の目的を理解したボランティアや学生などを集め、電話対応や行政窓口に対応や事務局運営ができる活動者をお願いすることを考えている。

② 本年度における他のNPOに関わる団体への協力および連携、共同研究に協力いただける機関や団体は、次のとおり。

- ・ NPO法人全国文字通訳研究会
- ・ 認定NPO法人特定非営利活動法人障害者放送通信機構
- ・ NPO法人はこだて音の視覚化研究会
- ・ 北海道教育大学函館校
- ・ 公立はこだて未来大学

今後も地域交流をはかり、社会貢献に努めるために、他のNPO団体への協力、連携および共同研究を進めたいと思う。

③ 平成29年度の会員状況について

年度末日（平成30年8月31日）現在の会員状況は、次のとおりである。

- ・ 正会員数（社員総数） 70人（前年度比5人減）
- ・ 準会員数 15人

④ 事務局運営の活動に必要な費用（管理費）は、次のとおりである。

科目	金額	内 訳	
(1)人件費	0円		
(2)その他経費	45,078円	諸謝金	6,000円 監事(会計監査)1人 手話通訳者依頼1人
		会議費	1,000円 理事会等の会議
		旅費交通費	528円 事務局担当者等の交通費
		通信運搬費	5,568円 未納会員等の郵送代
		印刷製本費	1,000円 会議資料、コピー等
		諸会費	6,226円 障害者団体定期刊行物協会
		貸倒損失	15,000円 前年度正会員5人退会分
		雑費	3,304円 茶菓子代等
		支払手数料	6,452円 会費回収のための手数料等
費用合計	45,078円		

⑤ 定款変更の検討事項について

平成29年10月1日から「貸借対照表の公告」が義務化されるため、定款の変更が必要となる。都庁のNPO担当との打ち合わせを行い、平成24年法改正および平成29年法改正による定款変更の検討に入った。

NPO法人に関わる社会情勢状況から「活動の公益性」「収益費用会計の真実性かつ正確性の明記」などを見直すべきという行政や助成金等団体からの助言があった。

別記の定款変更の理由と新旧対照表を作成したので近々臨時総会で提案、決議する準備をしている。(例：事業年度の変更「毎年9月1日から翌年8月31日まで」を「毎年4月1日から翌年3月31日まで」にするなど。)

以上

